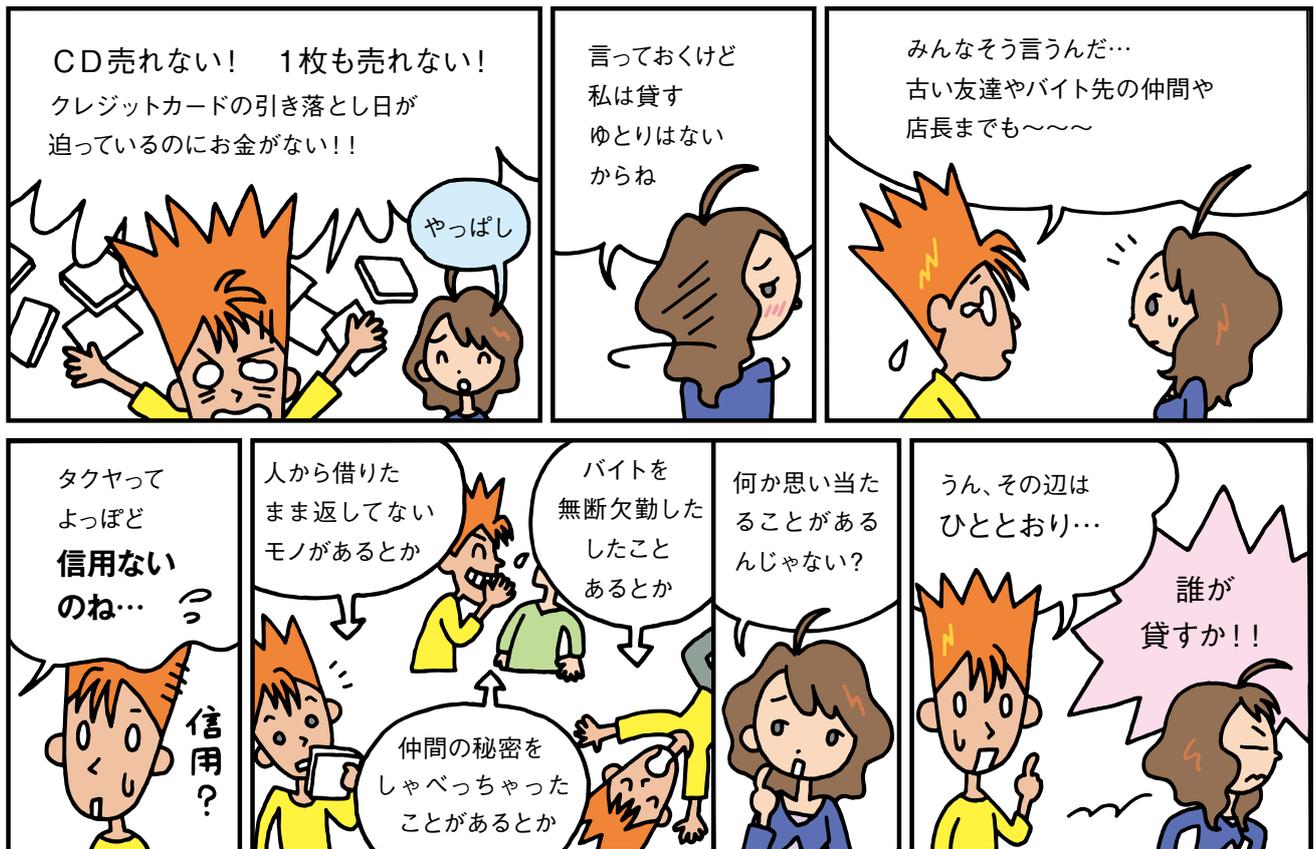


— 信用される人になろう —



E 1 信用 信用は一日にしてならず!

「信用」できる人とは、どのような人ですか。

- いつも待ち合わせの時間に遅れない人
- 秘密を絶対に他人に漏らさない人
- 貸したものをきちんと返してくれる人

などでしょうか。人と人の信頼関係は、それまでの付き合いのなかで積み重ねられていくものです。

では、例えば、はじめて行ったレンタルショップでDVDを借りられるのはどうしてでしょう。

それは、ふつう、本人確認書類などで本人であることが確認でき、会員として契約してルールを守ることに同意することで、契約が守られると信じるからです。

銀行がお金を貸すときも、収入や資産、返済の実績などを十分審査して、約束を守れる人かどうかを判断します。



E 2 高校生とカード 高校生でも持てるカード、持てないカード!

支払方法には現金のほかに、振込や口座振替^{こうざふりかえ}などの銀行を利用する方法や、プリペイドカード、デビットカード、クレジットカードなどのカードを利用する方法もあります。

私たちの身近にはどんな種類のカードがあるか見てみましょう。

<信用がなくとも持てるカード>

●**プリペイドカード**:プリペイドカードは、「代金を前払いした」という証拠になるもので、カード自体に価値があります。ですから、現金と同じようにそれを持っている人なら誰でも使え、なくしてしまえば使えなくなります。

●**メンバーズカード**:レンタルビデオ店などのメンバーズカード(会員証)は、会員であることを証明するためのIDカードです。

●**キャッシュカード**:銀行の普通預金の出し入れなどに使うカードです。1枚のカードで**キャッシュカード**とデビットカード、キャッシュカードとクレジットカード、キャッシュカードとローンカードなど複数の機能を持つものもあります。

<信用がないと持てないカード>

●**ローンカード**:後で返す(返済する)約束でお金を借りることができます。

●**クレジットカード**:買いたい商品などを先に受け取り、その代金を後で支払うことができます。プリペイドカードが「前払い」カードであるのに対し、クレジットカードは「後払い」カードです。

Q6 下の図E-1の中で高校生には持つことができないカードはどのカードでしょうか。理由も考えてみましょう。



プリペイド (prepaid) カード

プリペイドカードには、QUO(クオ)カードやテレホンカードのような「磁気カード」型とSuicaやICOCAのような「ICカード」型のものがある。磁気カードははじめに購入した金額を使ってしまうと使うことはできなくなるが、**ICカード**には繰り返し代金を追加して利用できるものもある。このようなICカードも電子マネーの一種。

※「Suica」はJR東日本の登録商標です。「ICOCA」はJR西日本の登録商標です。

ICカード(欧米ではスマートカードと呼ぶ)カードに埋め込まれたICチップで情報を記憶する方式。データを不正に変えたり、読み取ることが非常に難しい、安全性の高いカード。

一般的なICカードの場合、文字数に換算して500~8,000文字を記録できる。

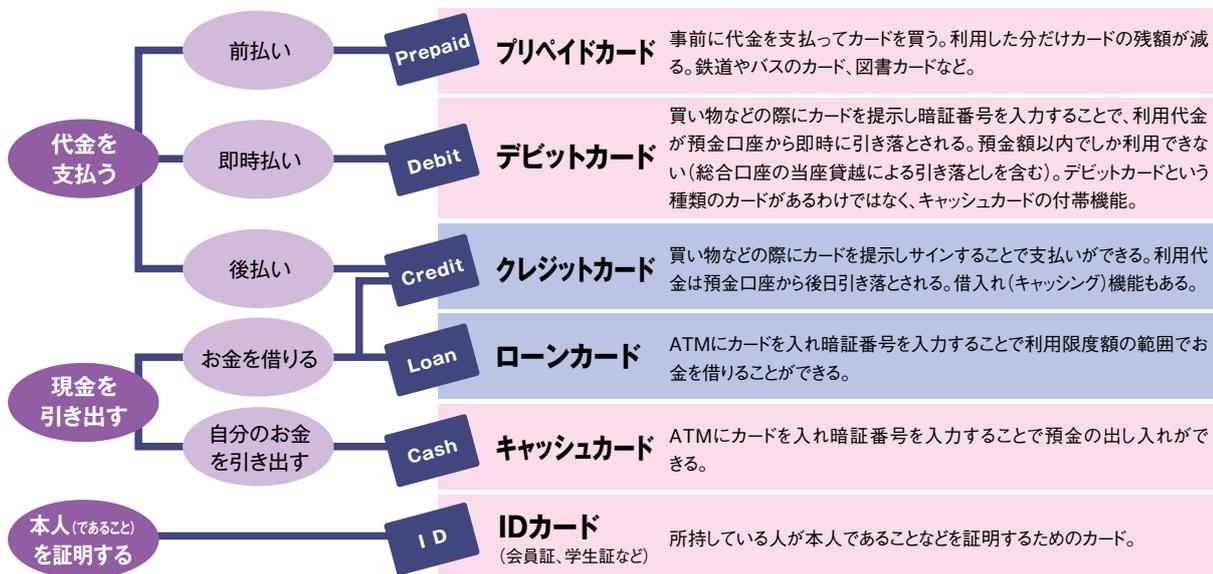
キャッシュカードの貸越機能(当座貸越)

総合口座には貸越機能がついている場合が多い。総合口座に普通預金と定期預金があると、普通預金の残高が不足しているときに、貸越機能により定期預金を担保に自動的に貸出が行われる。

公共料金やクレジットカードの口座振替などに利用している場合は、残高不足で引き落としができないといったことを防ぐために総合口座を利用する。

キャッシュカードで預金残高を超えた額を引き出すときなどは、当座貸越になり、利息負担が発生する。

図E-1 カードの機能別分類



信用が必要

E 3 金融における信用 「信用」は金額で表せる？

クレジットカードで買い物をすると、商品を先に受け取り、その代金を後で支払うことができます。こうしたことは、ふつう、顔見知りのお店でもない限り受け付けてもらえませんが、クレジットカードを持っていると、はじめてのお店でも後払いにすることができます。これはクレジットカードを持っている人に「信用」があるからです。

お金を貸す側の立場で考えてみると、貸したお金は必ず返済してもらわなければ困ります。ですから、ローンやクレジットにおける「信用」の意味は、どのくらいの金額までなら約束どおりに返済できるか（＝いくらまで貸せるか）という度合いのことです。

また、借りたお金を約束どおりにきちんと返すことを繰り返していくことは、より大きな信用を築き上げることにつながります。

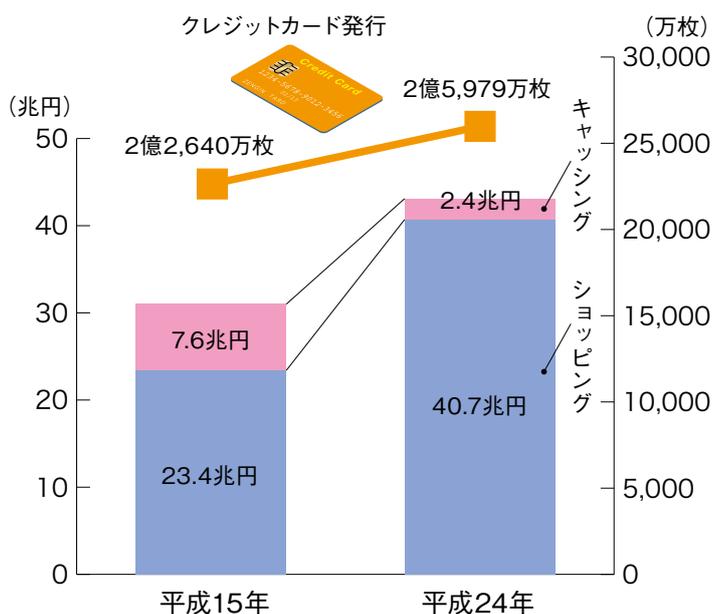
クレジット会社がカードを発行するときには、利用者の信用の度合いを計って**与信枠**を決めます。現在、日本国内で発行されているクレジットカード枚数は2億枚以上、利用額はショッピングとキャッシングの合計で43兆円以上です。

これを国民1人当りで見ると、クレジットカードを2枚持ち、年間に31万9千円のショッピングを行い、1万8千円のキャッシング（借入れ）をしていることとなります。

信用と与信

金融用語では、お金を貸す相手（借りる人）へ信用を供与することを「与信」という。クレジット会社などが、申込者に対してクレジットの利用を認めることも与信。

図E-2 クレジットカード発行枚数（実数）とクレジットカード信用供与額の推移（推計）



※資料：日本クレジット協会「消費者信用総括表（平成24年まで）」
「クレジットカード発行枚数調査（平成25年まで）」

E 4 4つのC あなたにはいくつ「C」がありますか？

お金を借りる人の「信用」とは、具体的には次の「4つのC」で表すことができるといわれています。

(1) Character—人格

借りたお金は後で必ず返済するという約束を正しく理解し、約束どおり返済する意志があるかどうか。

(2) Capacity—支払能力

借りたお金をスムーズに返済していける支払能力があるかどうか。

(3) Capital—資産（またはCollateral—担保）

病気や事故などにより返済が困難な状態におちいった場合でも、これをカバーする資産などがあるかどうか。担保（p19参照）があるかどうかをあげることもあります。

(4) Control—自己管理

自分の返済能力の範囲内で計画的に利用し、計画的に返済することができるかどうか。



E 5 担保 「人的担保」って人質のこと?

「担保」とは、お金を返済できなくなった場合の備え（保証）として、借り主が貸し主に提供するものです。

●物的担保:土地などの財産を保証とするもの

「万一返済できなくなった場合には、担保にした財産を処分（売却など）して返済にあてることができる」権利です。借入期間中に担保にする財産を貸し主に引き渡さない^{ていとうけん}抵当権や、引き渡す^{しちけん}質権などがあります。

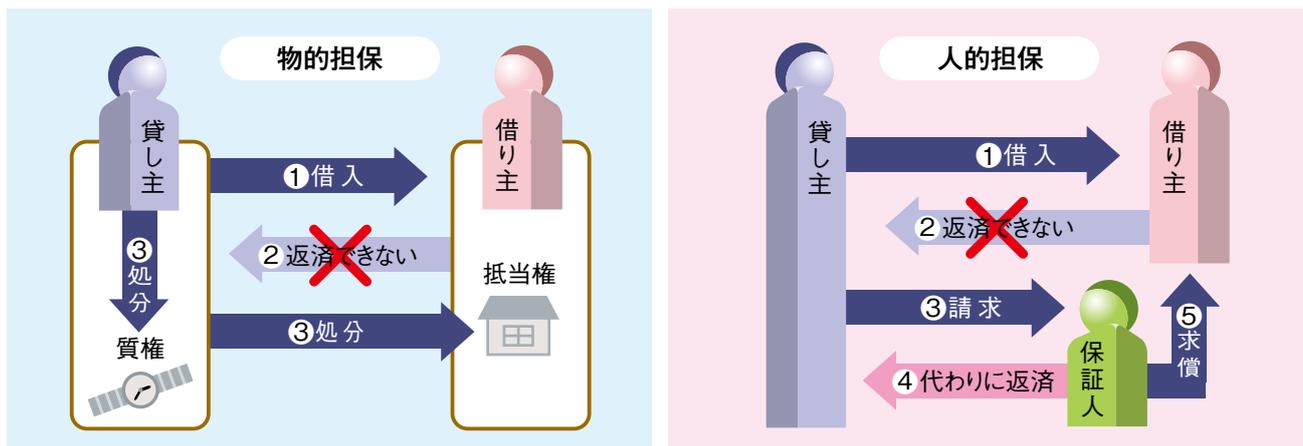
●人的担保:他人の信用を保証とするもの

「万一返済できなくなった場合には、借り主に代わって返済する」という約束で、この約束をした人を保証人といいます。保証人のなかでも、連帯保証人になった場合には、借り主とほぼ同等の義務を負うことになります。

ローンやクレジットで保証人が求められる場合は、連帯保証人になることが多いですが、保証料を支払って保証会社の保証を利用する場合があります。



図E-3 物的担保と人的担保



銀行員からの アドバイス



キャッシュカードやクレジットカードの情報を特殊な機械で盗み読み、カードを不正に使用する犯罪を防止するため、カードにICチップを組み込んだICカードを発行する銀行が多くなっています。

このほかにも^{せいたいになしやう}生体認証システムの採用など、カードの不正使用防止のための対策をとっています。

カードの持ち主になったら、「暗証番号は推測されにくい番号にする」、「暗証番号は他人に教えない」など、カードをしっかり管理するようにしましょう。



生体認証システム

手のひらや指先の静脈の形といった個人のカラダの特徴などで、カード所有者本人であることを確認（認証）することで、カードの不正使用を防ぐシステム。対応したICキャッシュカード（ICチップに本人の生体情報を記憶する）とATMが必要。

